

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

創立 116 年目を迎える本校の公立高校としての役割は、生徒・保護者・地域のニーズに応じた生徒の進路実現を図り、地域・社会に有為な人材を育成することにある。また、平成 29 年度より大阪府立高校初の（併設型）中高一貫校となることを機に、さらなる飛躍を期す。

<めざす学校像>

「南河内の誇りを胸に抱き、世界とつながり、活躍できる人材」の育成校をめざす。

<育みたい力>

- (1) グローバルな視野とコミュニケーション力
- (2) 論理的思考力と課題発見・解決能力
- (3) 社会貢献意識と地域愛

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の育成

(1) 各教科・科目において、学習指導要領の目標を踏まえ、「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善に取り組む。

- ア 新システム（45分×7限授業、全学年33単位）により、確かな学力の育成に取り組む
- イ アクティブ・ラーニングの実践による授業改善に組織的に取り組む
- ウ 英語の運用能力の推進
- エ 家庭での学習習慣の確立のための工夫

※（生徒向け）学校教育自己診断における授業満足度（平成27年度63%）を毎年引き上げ、平成29年度には70%以上をめざす。

## 2 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み

(1) 充実した学校生活の結果として「進学」を捉え、地域に対する深い愛情を基礎に、国際社会に貢献しようとする高い志をもつ人材を育成する教育を推進する。

- ア 「総合的な学習の時間」と各教科・科目や LHR 等とを有機的に連携させるとともに、地域の人材・施設等を積極的に活用するなど、3年間を見通した教育計画を作成し、平成 29 年度に完成する。
- イ 現役での国公立大学進学者の合格者数（平成27年度現役合格者数61名）を3年後（平成29年度）に30%増やす。あわせて難関大学（京都、大阪、神戸等）への受験者増をめざす。

※（生徒向け）学校教育自己診断における進路指導の満足度（平成27年度81%）80%以上を維持し、3年後に90%以上をめざす。

※（保護者向け）学校教育自己診断における進路指導の満足度（平成27年度76%）75%以上を維持し、3年後に80%以上をめざす。

## 3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取組み

(1) 充実した学校生活こそが、卒業後の力の源になることから、学校行事・部活動等の一層の充実を図る。

- ア 学校行事・学校生活の充実と部活動の奨励
- イ 社会人としての人権意識・マナーの醸成

※（生徒向け）学校教育自己診断の規範意識に関する項目における肯定率（平成 26 年度 76%）を維持し、平成 29 年度には 80%以上にする。

(2) 異文化交流による国際教育を推進する。

- ア 国際交流（台湾、オーストラリア、ドイツ、タイ等）の充実
- イ 海外交流校の発掘と交流

※（生徒向け）学校教育自己診断における国際（理解）教育の満足度（平成 27 年度 92%）90%以上を維持する。

## 4 中高一貫校への準備と地域・保護者との連携

(1) 平成29年度開校の中高一貫校に向けて、分掌組織の再編を行い、教育内容を検討し教育の充実を図る。

- ア 校務分掌を再編し、人材育成と教育活動の見直しを行う
- イ 全国的な教育課程研究会への参加や、全国の教育先進校の視察を行い、中高6年間の教育内容を検討・作成する。
- ウ 学校Webページや校長ブログによる情報の発信を強化する。

※（保護者向け）学校教育自己診断における情報発信の満足度（平成 26 年度 88%）90%以上をめざす。

(2) 地域・保護者と連携し、魅力ある学校づくりをすすめる。

- ア 安全・安心な学校づくり
- イ 保護者と連携した生徒の規範意識の向上
- ウ 地域貢献を推進

※（生徒向け）学校教育自己診断における学校満足度（平成 27 年度 90%）90%以上を維持する。

※（保護者向け）学校教育自己診断における学校満足度（平成 27 年度 94%）90%以上を維持する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<b>I 生徒・保護者</b> ( ) 内は昨年度%。教員も同様。 1 学校満足度 (1) 生徒 「富田林高校へ進学してよかった」・・・・・・・・・・87.8% (90.1)	<b>第1回6月29日(水)</b> (1) 平成 28 年度学校経営計画について *説明が自信にあふれている。 *計画の内容にリアリティーがある。 *AI は人の技術をすぐ超えてしまうが、人の力は超えられない。だから、ハートの

## 府立富田林高等学校

(2) 保護者 「富田林高校で学ばせることができよかった」 94.8% (94.3) ※保護者の満足度はこの7年間で最高値である。	
2 確かな学力の育成	
(1) 生徒 「教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い」・・・76.1% (72.5) 「授業中は集中して先生の話を聞いている」・・・83.1% (81.4) 「家庭学習を毎日90分以上している」・・・69.9% (66.1) 「ICT機器を使った授業はわかりやすい」・・・75.6% (67.8) ※上からの3項目はこの7年間で最高値。また、ICT機器の項目は、この項目が付け加えられた3年間で最高値。	
(2) 保護者 「学校の学習活動への取組に満足している」・・・81.4% (82.2) ※ICT機器を効果的に活用するなど、すべての生徒にとって学力が身に付く授業を実現するために今後も校内全体で授業改善に取り組む。	
3 進路実現	
(1) 生徒 「進路希望達成に適切な選択科目が多い」・・・78.4% (79.0) 「学校だけで、進路達成に必要な学力が身につく」・・・57.2% (54.2) 「理解度に応じて補講や講習が行われている」・・・83.6% (82.1) 「学校は進路についての情報をよく知らせてくれる」・・・80.2% (80.9)	
(2) 保護者 「学校の進路指導への取組に満足している」・・・76.4% (75.7) ※学力の向上とともに、一人一人の進路実現に向け、よりきめ細かな進路指導を行う。	
4 豊かな感性	
(1) 生徒 「学校の人権教育は適切である」・・・90.4% (88.9) 「学校は国際交流を積極的に行っている」・・・93.3% (92.4) 「学校行事に参加するのは楽しい」・・・92.2% (92.4)	
(2) 保護者 「学校の人権への取組に満足している」・・・83.2% (86.3) 「学校は国際交流を積極的に行っている」・・・95.8% (95.7) 「学校の学校行事への取組に満足している」・・・91.5% (86.8) ※国際交流及び学校行事に関して生徒・保護者両者から非常に高い満足度を得た。	
5 保護者連携	
(1) 生徒 「学校はHP・ブログなどで情報をよく流している」・・・69.9% (69.9) 「学校からの連絡を保護者に伝えている」・・・76.8% (76.8)	
(2) 保護者 「学校は教育方針をわかりやすく伝えている」・・・85.7% (84.7) 「学校は保護者が授業を参観する機会をよく設けている」83.3% (87.1) 「保護者説明会や学級懇談会の回数は適当である」・・・87.9% (91.2) 「学校はHP・ブログなどで情報をよく流している」・・・87.4% (86.4) 「学校からの連絡は子どもを通じて把握している」・・・69.1% (71.6) ※「学校は教育方針を分かりやすく伝えている」が過去7年間で最高値になるなど、保護者との連携（情報発信）は概ね達成。	
<b>II 教員</b>	
1 教育活動	
「アクティブ・ラーニングを意識して授業をしている」・・・82.0% (73.7) 「ICT機器を使った授業を行ったことがある」・・・82.0% (82.5) 「教員の間で、授業方法等を検討する機会が多い」・・・85.2% (66.7) ※教員の授業改善に対する意識の向上が、生徒の「確かな学力の向上」（上記2-(1)）の数値の上昇に寄与していると考えられる。	
2 学校経営	
「校長は自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている。」・・・98.4% (94.7) 「学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている」93.4% (91.2) ※校長の指導力は十分に発揮されている。	

ある生徒を育ててほしい。 *授業改善についてALの話があったが、子どもにどんな力を育成するのか、そのために授業をどう改善するか、日々の授業をどれだけ充実したものにするかが重要。 *校内全体で授業改善を図るならば、教科の壁を越えて校内研修や研究授業を行う必要がある。
(2) 中高一貫校設置に向けての進捗状況について *私立の中高一貫校とはどこが違うのか。 *内進生と外進生との学力のギャップはどうするのか。 *近隣の中学としては本音では悩ましい。府立であっても地元に着した学校にしてほしい *近隣の中学とよい関係を築いてもらいたい。

**第2回 10月3日(月)**

(1) 平成28年度学校経営計画の進捗状況について *校内全体で積極的に授業改善に取り組んでいるのは良いことだ。 *研究授業と研究協議を行ったということだが、どのような参加状況であったか。 *研究授業に教員全員が参加できるよう、当該クラス以外の授業をカットして実施するというのを高校でやっていることにたいへん驚いた。 *アクティブ・ラーニングという言葉が先行しているが、これは1つの手法であって、実際は学力などの要素を踏まえてどんな力をつけたいかを明確にすることが大切である。 *大学でも研究授業を行っているが、ループリックは大切。 *授業の中で参加型の場合、先生はファシリテーターという意識で臨むことが学びを引き出すために必要なのでは？評価基準が決まっても意識が違くとダメではないだろうか。 *「教科の専門性を越えた組織的な取組」というのはできていると感じた。 *学校の仕組みをハードウェアとするなら教員はソフトウェアといえる。進捗状況を聞いて、とりあえず望む方向に進みつつあるのではないだろうか。
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**第3回 2月21日(火)**

(1) 平成28年度の総括
①学校教育自己診断の結果より
A. 生徒の結果より *2年生の「家庭学習一日90分以上」（生徒用）という項目が低い。勉強に対するモチベーションは高まっているか。 *1年生で「相談できる先生があり」という項目が他学年と比べて低いが、現場での感覚はどうか。 *「教え方に様々な工夫をしている先生が多い」の数値は高い一方で、「わかりやすく興味をもてる授業が多い」の数値は低い。この結果をどう分析するか。
B. 保護者の結果より *全体的に右肩上がりであるが、自由記述で特徴的な内容はあったか。
C. 教員の結果から *教師の多忙化が話題になっているが、「富田林高校での勤務は充実している」の数値は高い。現状はどうか。
D. 全体を通して *富田林高校として特に課題と思われる点があるか。
②学校経営計画及び学校評価より
A. アクティブ・ラーニングの視点での授業改善について *アクティブ・ラーニングが浸透しにくいと思われる高校で、とてもよくやっていると思う。
B. 総合的な学習の時間について *総合学習をはじめ、授業と学校が求める生徒像とが一致している。 *ポスター発表も見たが、生徒がどれだけ前向きに取り組むかが重要である。
C. 国際交流について *地域的に外国にルーツがある子どもも多いため、国際教育に力を入れてもらっているのありがたい。
(2) 次年度に向けた提言 *「グローバル」の「ローカル」な部分をもっとクローズアップしてもらいたい。 *教員の取組みの成果がよく表れている。子どもたちが地域や国や世界を変えるような人材に成長してもらいたい *より広い視野をもてるよう、地域との繋がりを一層大切にしてもらいたい。 *21世紀型の学力を子どもたちに身に付けられるような指導をお願いしたい。

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) 各教科において新学習指導要領を踏まえ、「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善に取り組む。</p> <p>ア 新システム(45分×7限授業、全学年33単位)により、確かな学力の育成に取り組む</p> <p>イ アクティブ・ラーニングの実践による授業改善に組織的に取り組む</p> <p>ウ 英語の運用能力の推進</p> <p>エ 家庭での学習習慣の確立のための工夫</p>	<p>ア・昨年導入した新システム(45分×7限授業、全学年33単位)により、学校生活をデザインする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読書時間を増やす一環として、朝のSHRを15分に延ばし、読書とリンクした活動を設定する</li> </ul> <p>イ・年度当初に教科ごとに「アクティブ・ラーニング」の取組みを検討し、各教員が「アクティブ・ラーニング」の授業デザインをもてるようにする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科別に1週間の公開授業週間を設定し、他教科からも授業参観がしやすい環境をつくる</li> <li>・とともに、授業観察シートを活用して教科の専門性を超えた授業研究をおこなう</li> <li>・生徒による「授業アンケート」を5月、11月に実施し、全教科による授業改善シートを作成する</li> <li>・全教科でICT機器を活用した研究授業を実施し推進し、成果検証を行う。またICT環境の改良を行う。</li> </ul> <p>ウ・1・2学年に英語能力試験(外部試験)を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・台湾修学旅行での学校交流に向け、実践的な英語運用能力の育成</li> </ul> <p>エ 家庭学習記録ノートの作成と個人面談</p>	<p>ア・(生徒向け)自己診断における授業満足度(平成27年度63%)70%をめざす</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝のSHRを15分に延ばし、読書とリンクした活動を設定できたか</li> </ul> <p>イ・教科ごとに「アクティブ・ラーニング」の取組みを検討できたか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科別に1週間の公開授業週間を設定できたか。また、校内全体で授業研究を実践できたか。</li> <li>・2回の「授業アンケート」を実施し、全教科による授業改善シートが作成され改善がすすんだか</li> <li>・ICT機器を活用した授業ができたか(教員向け学校教育自己診断)ICT活用授業を行ったことがあるか(平成27年度82.7%)85%以上をめざす</li> <li>・ICT環境の改良ができたか</li> </ul> <p>ウ・1・2学年が英語能力試験を受験し、成果検証ができたか(英検受験者の増加などの効果がでたか)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修学旅行前の英語運用能力の育成ができたか</li> </ul> <p>エ 家庭学習ノートの活用ができたか(平成27年度66%)80%をめざす。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・(生徒向け学校教育自己診断)授業満足度は63%と横ばい(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読書とリンクした活動は十分には設定できなかった。(△)</li> <li>・※次年度は各学年教科学習とリンクした活動を設定する予定。</li> </ul> <p>イ・「アクティブ・ラーニング研究チーム」を発足し、府教育Cのパッケージ研修支援を活用して「アクティブ・ラーニング」の取組みを校内全体で推進し、成果を府教育Cの研修フォーラムで発信した。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・12月に教科別で「アクティブ・ラーニング」の視点を入れた指導案(ルブリック付き)を作成し1週間の研究授業週間を実施し、放課後に教科別の研究協議を行った。(○)</li> <li>・2回の「授業アンケート」を実施し、全教科による授業改善シートが作成され授業改善がすすんだ。(○)</li> <li>・ICT機器を活用した授業については、(教員向け学校教育自己診断)「ICT機器を活用した授業を行ったことがある」(H27:83%)が82%とほぼ横ばい(△)</li> <li>・プロジェクトから黒板に映像を映しているが、マグネット式スクリーンを購入し、より見やすい映像を映し出すことができています。(○)</li> </ul> <p>ウ・1・2年生全員がGTECを受験した。経年受験をしており、個人の英語力の伸長を把握するとともに、大学受験のデータとリンクさせることで進路指導にも生かせるようになった。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修学旅行を実施する2学期より、2年生全員「英語表現Ⅱ」において、PPTも活用した英語によるプレゼンテーションの訓練を通して英語の運用能力を育成した。(○)</li> </ul> <p>エ (生徒向け学校教育自己診断)「家庭学習を毎日90分以上行っている」(H27:66%)は今年度70%に上昇し、家庭学習ノート活用の成果は出ているが、目標の80%には達しなかった(△)</p>

## 府立富田林高等学校

<p>2 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み</p>	<p>(1) 充実した学校生活の結果として「進学」を捉え、地域に対する深い愛情を基礎に、国際社会に貢献しようとする高い志をもつ人材を育成する教育を推進する</p> <p>ア 「総合的な学習の時間」とLHR等を有機的に連携させとともに、地域の人材・施設等を積極的に活用するなど、3年間を見通した教育計画を作成し、平成29年度に完成する。</p> <p>イ 現役での国立大学進学者の合格者数（平成27年度現役合格者数61名）を3年後（平成29年度）に30%増やす。あわせて難関大学（京都、大阪、神戸等）への受験者増をめざす。</p>	<p>ア・3年間の総合的な学習の時間を検討する組織作り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習の時間をとおして、課題設定や研究発表により、課題発見・解決能力やプレゼンテーション能力の育成を図る（個人発表とクラス代表発表大会を実施）</li> </ul> <p>イ・本校独自の「学習見える化システム」を1年次より活用し、将来の目標を早期に発見させる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒・保護者に適切な進学説明会を継続して実施する</li> <li>放課後、土曜日に自習室を解放</li> <li>進学講習の充実</li> <li>勉強合宿（2年生）の実施</li> </ul>	<p>ア・総合的な学習の時間を検討する組織がどの程度機能し、指導計画の完成度で成果を検証する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>探究型の課題研究ができ、また個人のプレゼンテーションも学年全体でできたかを検証する（ルブリック教科指標の設定）</li> </ul> <p>イ・「見える化システム」の利用者数の把握（利用者50%をめざす）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進学説明会の成果検証（保護者向け）学校教育自己診断 進路指導の満足度（平成27年度76%）80%以上をめざす</li> <li>自習室利用率の向上（生徒向け）学校教育自己診断 自習室利用率（平成27年度37%）を50%に向上</li> <li>2学年後半から計画的に進学講習が実施できたか（週1回、国・数・英）</li> <li>勉強合宿参加希望者50名以上を維持。（平成27年度57名）</li> </ul>	<p>ア・総合学習を担当する創生部が、明確な目標を設定し、それに向けた年間指導計画を作成した。（○）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>探究型の総合学習を計画し、年度末には学年全体のプレゼンテーション大会と地域フォーラムを実施し、学習の成果を発信する。また、総合学習で付けたい力を測定するルブリックを作成した。（◎）</li> </ul> <p>※今後は、中高一貫した総合学習の指導計画の練りあげが必要となる。</p> <p>イ・1年生全員に「見える化システム」の活用について説明をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3年生は、各担任に配付したタブレットを使い大学受験指導に「見える化システム」を活用することで、3年生のほぼ全員が利用した。（◎）</li> <li>（保護者向け学校教育自己診断）「学校の進路指導の取組みに満足している」（H27:76%）は76%と横ばいで目標の80%に達していない。（△）</li> <li>（生徒向け学校教育自己診断）「自習室をよく利用している」（H27:37%）は学習塾などに通っていることから36%とほぼ横ばいで、目標の50%に達していない（△）</li> <li>進学講習について、英語はすでに開始し、国・数についてはまもなく開始予定。（○）</li> <li>勉強合宿については、中高一貫校設置作業や他の行事の関係で、今年度は実施できなかった。（△）</li> </ul> <p>※時期等を含め、来年度実施可能かどうかについて要検討。</p>
<p>3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取組み</p>	<p>(1) 充実した学校生活こそが、卒業後の力の源になることから、学校行事・部活動等の一層の充実を図る。</p> <p>ア 学校行事・学校生活の充実と部活動の奨励</p> <p>イ 社会人としての人権意識・マナーの醸成</p> <p>(2) 異文化交流による国際教育を推進する。</p> <p>ア 国際交流（オーストラリア、ドイツ）の充実を図る。</p> <p>イ 海外交流校の発掘と交流</p>	<p>(1)</p> <p>ア・昨年度に検討した行事の見直しの効果検証</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>文化祭・体育祭の実施時期の変更</li> <li>3年間とおした遠足計画</li> <li>ペナント（球技大会）見直し</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>部活動への参加を奨励</li> <li>学校行事や部活動などへの生徒のやる気を引き出す記念品（グッズ）の作成</li> <li>人権研修の実施計画の見直し</li> </ul> <p>イ・挨拶、遅刻指導の充実と生活マナーの向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>式（入学、卒業、始業・終業など）での標準着用指導</li> </ul> <p>(2)</p> <p>ア・オーストラリアの姉妹校との交流の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ドイツ（ザーラント）との交流の充実</li> </ul> <p>イ・中高一貫校での修学旅行（中学校・高校）の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海外交流校の情報収集と調査</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア・（生徒向け）学校教育自己診断結果における行事満足度（平成27年度92%）90%以上を維持</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>部活動加入率（平成27年度92%）90%以上を維持</li> <li>（生徒向け）学校教育自己診断結果における人権教育満足度（平成27年度89%）80%以上を維持</li> </ul> <p>イ・（生徒向け）学校教育自己診断結果における校則遵守率90%以上を維持（平成27年度95%）</p> <p>(2)</p> <p>ア・できるだけ多くの生徒が海外の高校生と交流</p> <p>イ・東南アジアへの修学旅行先や姉妹校提携先を発掘できたか</p> <p>（生徒向け）学校教育自己診断結果で国際交流満足度を測定し、90%以上を維持（平成27年度92%）</p>	<p>(1)</p> <p>ア・（生徒向け学校教育自己診断）「学校行事に参加するのは楽しい」（H27:92%）は92%と横ばいで目標を達成。（○）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>部活動加入率（H27:92%）で今年度は90%となるが目標は達成。（○）</li> <li>（生徒向け学校教育自己診断）「学校の人権教育は適切である」（H27:89%）は90%となり、目標を大きく上回る。（◎）</li> </ul> <p>イ・（生徒向け学校教育自己診断）「自分は校則やマナーを守っている」（H27:95%）は、今年度も95%であり、目標を達成。（○）</p> <p>(2)</p> <p>ア・台湾の生徒と半日の交流。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>タイ、ドイツの生徒と1週間程度の交流（○）</li> </ul> <p>イ・修学旅行で台湾新北市の北大高級中学と1日の交流。アンケートでも生徒の評価は極めて高かった。（◎）</p> <p>（生徒向け学校教育自己診断）「学校は国際交流を積極的に行っている」（H27:92%）は93%となり、目標を達成。（○）</p>

## 府立富田林高等学校

<p>4 中高一貫校への準備と地域・保護者との連携</p>	<p>(1) 平成29年度開校の中高一貫校に向けて、分掌組織の再編を行い、教育内容を検討し教育の充実を図る。</p> <p>ア 校務分掌を再編し、人材育成と中高一貫校に向けて教育活動の見直しを行う</p> <p>イ 全国の教育先進校の視察を行い、中高6年間の教育内容を検討する</p> <p>イ 学校Webページや校長ブログによる情報の発信</p> <p>(2) 地域・保護者と連携し、魅力ある学校づくりをすすめる。</p> <p>ア 安全・安心な学校づくり</p> <p>イ 保護者と連携した生徒の規範意識の向上</p> <p>ウ 地域貢献を推進</p>	<p>(1)</p> <p>ア・4分掌の機能の検証</p> <p>・人材育成の検証</p> <p>イ 全国の先進中高一貫校の視察と情報収集</p> <p>ウ 効果的な情報発信のための学校 Web ページの充実</p> <p>(2)</p> <p>ア・教育相談委員会による情報収集と共有</p> <p>・安全安心のための学校環境の整備</p> <p>イ・家庭と連携し、生活指導上の問題(頭髪、服装、遅刻・欠席等)を早期に解決する</p> <p>・遅刻の際、「入室カード」制度を導入し、意識の向上をはかる</p> <p>ウ 地域からの要請に応えるだけでなく、地域に出かける活動を取り入れる</p>	<p>(1)</p> <p>ア・各分掌内の2つの係の連携がスムーズにできたか</p> <p>・継続的な人材育成が「創生部」の取組みとしてできたか</p> <p>イ 中高一貫校の先進校情報を収集し、学校づくりに活かされたか</p> <p>ウ 効果的な情報発信ができたか</p> <p>(保護者向け) 学校教育自己診断結果における学校 Web ページなどの情報発信満足度(平成27年度86%)80%以上を維持する</p> <p>(2)</p> <p>ア (生徒向け) 学校教育自己診断結果における悩み相談の満足度60%以上(平成27年度56%)</p> <p>イ・「入室カード」制度がスムーズに導入できたか</p> <p>・その結果、遅刻件数の2割減を達成できたか</p> <p>ウ 河川清掃などの継続</p>	<p>(1)</p> <p>ア・運営委員会にも分掌部長のみが出席することで、意思決定がスムーズに進んだ。(○)</p> <p>イ・創生部が「インシアティブ」を取り、指導教諭をトップとした教職経験の少ない教員からなる「アクティブ・ラーニング研究チーム」を発足。校内全体での授業研究が大いに進み、成果を3年目の教員が府教育Cの研究フォーラムで発表した。(◎)</p> <p>・公立中高一貫校の西京中高校を訪問し、得た情報を基に、富田林中学校のカリキュラム等を作成した。(◎)</p> <p>ウ(保護者向け学校教育自己診断)「学校はホームページ・ブログなどで情報をよく流している」(h27:86%)が87%となり、目標を達成。(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア(生徒向け学校教育自己診断)「困っていることや悩みを相談できる先生がいる。」(H27:56%)が57%に。しかし目標の60%には届かず。(△)</p> <p>イ・「入室カード」制度を導入することで、遅刻件数は大きく減少している。</p> <p>・減少率は前年度比22%となり、12月現在目標を上回っている。(◎)</p> <p>ウ・年度末に地域の河川清掃を行う。(○)</p>
-------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------